

# 自分から動く。

人を頼って  
いい。

やってみたら？という空気。

関わりを持つ。



## 気づきを大切に。

# 躍動する兵庫

地域で豊かに暮らす。

# HYOGO VISION 2050

ひょうご  
ビジョン  
2050

<https://hyogo-vision.com/>

このリーフレットは、2050年ごろまでに実現をめざす兵庫の姿を定めた「ひょうごビジョン2050」をわかりやすく紹介したものです。もしかしたら明日のあなたかもしれない、5人の姿をヒントに考えてみませんか。

自分らしく  
生きる。

## 自分にできることを考える。

### 五国の強み

受け継いだものだからこそ  
次世代につなげる責任がある。

# 包摂



# 挑戦

この場所で、実るものがある。

出身地の大阪で会社員生活の後、結婚を機に神戸に移り住んだ鎌田風花さん。  
パティスリー店員として働いていましたが、独学で続けていた写真を仕事にすることを決断。  
現在は家族写真や広告写真を撮影するフリーの写真家として活動中です。

### 自分で何かをやっていくのも一つの道かなと思うように

物心ついた時から写真が好きだったという鎌田さん。「大阪にいる時はフリーランスで写真を撮ってこんなんで  
思っていませんでした。兵庫に住んだのは結婚がきっかけなので自分で選んだわけではないですが、  
ここで暮らすようになって写真で生きていこうと思ったのです。自分の中では自然な流れだったんですが、  
改めて考えると、この地域だったから、というのはあるかもしれません」。神戸暮らしで気づいたことがありました。  
「会社員時代より、仕事やプライベートでもいろんな働き方をしている人に出会う機会が多くて、  
働き方の選択肢として自分で何かをやっていくというのも一つの道かなと思うようになりました」

友人から家族写真撮影を依頼され「宝物だ!」と喜んでくれる姿を見て、  
「誰かの宝物を撮れる仕事をしたい」と決心。写真の学校で学んだ経歴も写真家のもとで  
修業した経験もないけれど、「写真一本で生きていく」と決めました。  
Instagramで写真を発信し続け、観光の広告撮影の仕事も舞い込むようになりました。



写真家 <http://www.hummingbird.photo>

1990年生まれ。写真事務所「Humming Bird」主宰。ナチュラルで透明感のあるポートレートや風景写真を得意とし、家族写真の出張撮影や写真セミナーの講師、広告撮影なども手掛ける。

Kamata Fuka  
鎌田風花さん

インタビュー動画



### やりたいことを「やりたい」と言える雰囲気

「正直、独学でどこまでできるのか、不安もある。ただ、逆にそれが  
楽しみでもあります。今暮らしている街は、『こんな店が開きたい』って  
実際にお店を構えている人や、アーティストなど、やりたいことを  
やっている人が多くて、本当に生き方が自由だなという印象なんです。  
話していてもみなさんフラットで対等。『やってみたら?』という  
寛容な雰囲気が、楽しいことをやっていこうっていう気持ちを  
後押ししてくれている気がします。私の生き方やライフスタイルに  
うまく合っているのが神戸だった、ということかもしれないですね」

写真家としても神戸はとても心地良い場所だそう。「都会なのに  
暮らしの近くに自然があって、運転が苦手な私でも、山や海、自然の多い  
公園に電車やバスで気軽に行ける。もしも建物しかない息苦しい  
場所だったら同じ仕事をできてたかと聞かれると難しいかと思いますが  
四季を感じられる場所が身近にあるので感性が磨かれる。それも幸せだなって」

住んでいる街の雰囲気が「祖父母が暮らす伊勢の港町となんとなく似ている」と感じています。  
「だからかもしれませんが、とても落ち着く。安心して暮らせることで、心のゆとりもできる。  
私にとって写真はライフワークなので、生きることと働くことはとても近い。だから息抜きの場所が  
あるのも大事なのですが、見晴らしのいいベランダから見る夕暮れがとてもきれいで。  
そういう景色を見ているともうちょっと頑張ろうって思えたりします」

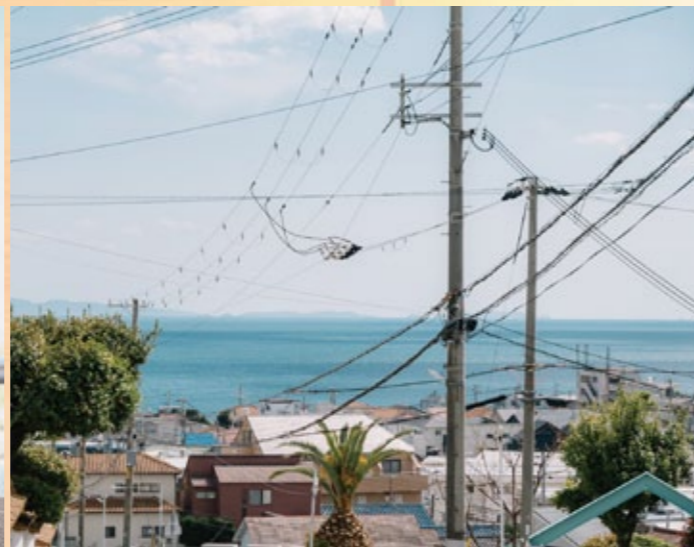
# 「『やってみたら?』という 寛容な街の雰囲気が、 気持ちを後押ししてくれている気がします」

key word

鎌田さんの言葉から考える「ひょうごビジョン2050」のヒント/  
1 選択肢に出会う 2 周りの寛容さ 3 心にゆとりを持つ



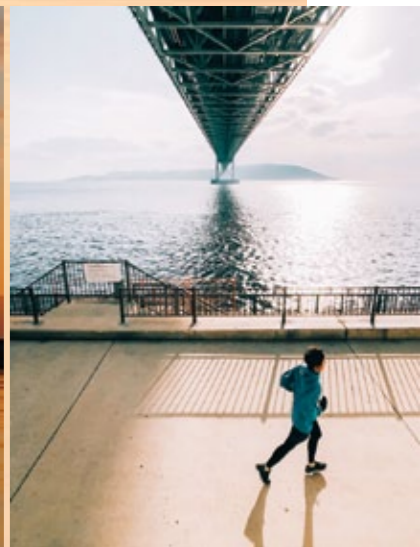
大好きな街で毎日シャッターを切る



海を身近に感じる街が好きだ(神戸市内)



初日の出(須磨海岸)



淡路島も近い(明石海峡大橋)

自由になる働き方  
居場所のある社会 / 世界へ広がる交流



自分らしく  
生きられる社会





伝統的な町並みが残る丹波篠山市に移住した岸田万穂さん。  
地域での出会いが木工家やNPO法人の理事、農産加工所の代表という多彩な活動への挑戦につながりました。  
「尊敬できる人が周りにたくさん。力をいただいています」と話します。



岸田さんは木工の技術を磨きながら、地域を盛り上げる活動にも挑戦している



放置されることが多い竹を活用してバス停をリノベーション

### 旧福住小学校をベースにNPO法人「SHUKUBA」で地域活動

大学のフィールドワークで、荒廃する山林や農村の現状を目の当たりにした岸田さん。  
「木材を生かすことが山を守り、地域を元気にするのは」と、木工家を志すようになりました。  
授業で訪れた丹波篠山へ「多様な樹木があり、薪や炭の文化も残っている。山の資源をもっと活用すれば、  
地域に良い循環が作れそう」と移住。開業届を出し木工家として助走しながら、竹を使ったバス停を改修し、  
閉校する福住小学校の跡地活用検討委員会のメンバーに。

「責任を持って地域を盛り上げていこうという地元の方と、若手移住者たちが集まって」立ち上げた  
NPO法人SHUKUBAの理事を務めています。



移住者が1カ月単位で飲食店を開業できる「チャレンジカフェ」

「SHUKUBAは、地域が良くなるための集まり。  
移住者によるチャレンジカフェなど、できるだけ多くの人に  
大事にもらえることをめざして、挑戦を続けています。  
私は、自分のできる範囲で力を貸せるところがあるんだったら  
やってみようというスタンス。周りを見渡して、多分この役目を  
やったらいいんだろうなという役割に徹しています。  
ずっと一緒に頑張ってきたメンバーは親ぐらい年が離れていますが、  
本当に尊敬できる方たちで『力になりたい』と自然に思えるんです。  
将来、自分もそんな人になれたら」

# 「横に幅を広げるチャレンジって、 やっぱり自分以外の誰かに 出会った時でしか生まれない」

## 想定外のできごと大切な出会いのひとつ

岸田さんは地域食材を使った加工食品を小ロットから製造できる農産加工所  
「福住daidocolab. (だいでこラボ)」の代表も務め、成果を上げています。  
「私が代表をやらなかつたらラボの事業を畳むしかないという  
事態になり、『何もやらずに終わらせてしまうのは違う』と、  
事業を引き継ぐ決心をしたんです」

そして専門外だった食品加工をゼロから学び始めました。  
「缶詰め、瓶詰め、レトルトパウチ、それぞれの容器に  
どういった特徴があり、賞味期限はどうやって設定されているのか。  
こんな風に食品は作られていくのかと、学んで知れば知るほど  
感謝の気持ちが持てるんです。みんなで頑張ろうねっていう仲間がいるので、挑戦できていると思うのですが」



閉校した小学校の調理室を改装した「福住daidocolab.」

定住を決意し、土地を手に入れて、自宅兼工房を自らの手で新築中の岸田さん。  
「何かを掘り下げる勉強以外に、チャレンジして横に幅を広げるみたいなことって、  
やっぱり自分以外の誰かと出会った時でしか生まれない。予想外の出来事は学びを得られる機会ですし、  
予想外のことが起きた方が人生楽しいかなって思います」

岸田さんの言葉から考える「ひょうごビジョン2050」のヒント／

key  
word

1 自分にできることを考える 2 小さな挑戦から 3 新しい出会い



Kishida Maho

岸田万穂さん

木工家・NPO法人理事

1991年神奈川県生まれ。大学では間伐サークルに加入し、卒業後は岐阜県立森林文化アカデミーに進学。2016年に移住した丹波篠山市で3年間、起業支援型の地域おこし協力隊として放置竹林の問題などに取り組む。NPO法人「SHUKUBA」理事、農産加工所「福住daidocolab.」代表。

インタビュー動画



みんなが学び続ける社会／わきたつ文化



新しいことに  
挑戦できる  
社会





出産を機にふるさとの淡路島にUターンした助産師の藤岡勢子さん。  
自身の子育てもしながら、2022年4月、島で唯一の助産院「さくら助産院」を淡路市に開業。  
地域の子育てを見守る拠点としての活動も積極的に行っています。

### 子育ては一人ではできない。

「死ぬまで続けたいって思って助産師の仕事をしてきたので、自分の子どもが生まれた時、仕事と子育ての両立は絶対でした」という藤岡さん。ご両親や祖父母のサポートを得やすい環境を求めて神戸から淡路島にUターン、そこで気がついたことがあるそうです。  
「今の淡路島は移住者が多いということ。移住者は両親が近くにいないだけでなく、友達作りも難しいこともある。子育てしていると孤立することも多いけど、声をかけてくれたり、相談できる存在があるだけでも楽になると思うんです。だからどんな人でも困った時に助けを求めたり相談できる場、安心して子育てできる場を立ち上げたいと思いました。助産院ならみなさん安心して来られるのではというもあり、開院を決めました」

資金調達や病院との連携に走り回り、ようやく開業にこぎつけた藤岡さんですが、ご自身も子育て真っ只中。「娘はまだ小学校1年生なので、まだまだ手がかかります。私は24時間365日助産院が中心の生活なので、四六時中見てあげることがやっぱりできなくて。一緒にいてあげられない夜が続くと、『ママと寝たい』って言われます。ふといなくなるとどこ行ったんだろう？って思っていたら近所のおじいちゃんと助産院の前で1時間くらいお話していたり、知らないおばあちゃんが『ちょっとお菓子食べていき』って娘に声をかけてくださったりして。ああ、自分だけでなく地域がちゃんと娘を見守ってくれて子育てしてくれているんだなって、身にしみて感じています」



上) 10月30日の日曜日、2階ホールでハロウィンのイベントを開催。赤ちゃん連れ家族がたくさん集まった

中) ほとんどの人が家族で訪れる妊婦健診。赤ちゃんの心音を聞いて新しい家族を迎える日を楽しみに待つ

下) ロビーで開いた赤ちゃん抱っこ講座。赤ちゃんの体を包み込むスリングの使い方を教わる新米パパとママ



退院の日、赤ちゃんを囲む家族写真を撮っている



「人を頼って子育てしてもいい。  
私も地域の方々に支えられています」

### 「また次も子育てしたい」と思えるような場を提供したい。

「考えてみると、自分の小さい頃も地域の中で育っていくのが当たり前だったなと思うんです。淡路島のそういうところは今も変わってない。だからそれを絶やさず自分の子どもの代にも伝えていくことで、孤立して育児しなくちゃいけないお父さんやお母さんが少しでも減ってほしいなと思います」

頼るところがなくて夜中に「助けてほしい」と、あるお母さんから電話がかかってきたこともあるそう。「2、3時間お子様を預かって、ゆっくり寝てもらったんです。そうしたらお母さんも笑顔に戻れる。実はそういう一時預かりも始めました。誰かを頼って子育てするって悪いことじゃない。私はそうみんなに言ってるんです。うちの子も私が周りに頼ることで、たくさんの人に育ててもらって、めちゃくちゃ愛されてるなって思うんです。私が『子育て』してるかと言われるかはわかりませんが、それが私なりの『子育て』なのかもしれない」

「助産院だけど、出産だけでなくその後も『子育てで困ってもここに帰ってきたらいいんだ』って安心して、また一人産めるとか、また次も子育てしたいと思えるような場であり続けたい」という藤岡さん。「私を取り上げた子たちが大きくなって、いつかその子たちと一緒に何かできればいいなって思っています」

key word

藤岡さんの言葉から考える「ひょうごビジョン2050」のヒント/  
1 地域で子育て 2 孤立させない 3 人を頼れる



Fujioka Seiko  
藤岡勢子さん

一児の母・助産師 <https://sakura-midwifery-home.com/>

1988年淡路市生まれ。広島で過ごした大学時代、実習で産婦人科を見学し、出産に感動したことと、ひどい生理痛に悩まされて初めて受診した産婦人科で親身に話を聞いてもらえなかった経験から、「私だったらこうしたい、こうしてあげたい」をかなえようと助産師に。助産師歴11年。

インタビュー動画



みんなが生きやすい地域／安心して長生きできる社会



誰も取り残されない社会





1922 (大正11) 年に竣工した歴史的建造物を活用したレストラン  
「旧網干銀行 湊倶楽部」(姫路市) で総料理長を務める鵜鷹絢さん。  
顔の見える生産者から購入した兵庫の豊かな食材を活かし、地域経済の循環にも貢献しています。



看板メニュー黒毛和牛のビーフシチュー。  
肉は姫路和牛を使っている



Utaaka Ken  
鵜鷹絢  
さん 総料理長

# 「お客様の声を伝えることで、農家さんも『じゃあ来年はもっと美味しく』って思ってくれる」



農園でキウイモを収穫する末永藍子さん(左)と、料理法について会話をしている鵜鷹さん



野菜の仕入れ先は3カ所あるが、鵜鷹さんが訪れる頻度が高いのは栗町まんまる農園。「いろいろな野菜を作っていて珍しいものに出合える。親芋はグラタンにしてみようかな」。買った野菜は翌日、仕込みに使う



## 五国の恵みを次の世代につなげていく

レストラン「旧網干銀行 湊倶楽部」は、古くから舟運で栄えた旧網干町の一角に大正時代に建てられた銀行の建物を改装して2019年10月に開業しました。大正モダンな内外装と共に、鵜鷹さんが地元食材にこだわって作る料理が人気です。魚は近くの商店街の一角にある鮮魚店から、その日一番の地魚を仕入れます。兵庫県産小麦「北野坂」と淡路・五色浜の自凝雪(おのころしずく)塩を使った自家製のパンは、優しい味が評判を呼んでいます。レストランが開業するまでは住宅街になっていた元商店街にも変化が。近隣から「夜が明るくなってよかった」という声を聞くようになりました。若い人たちが商店街の空き家をリノベーションして店を開く動きも出ています。

昨年11月にはレストランの駐車場で仕入れ先の農家の人たちが自慢の野菜を運び入れ、マルシェを開催。鵜鷹さんはそれぞれの仕入れ先の野菜を使った総菜パンを販売しました。「この野菜を使ったパンなの？ 美味しいわ」と野菜もパンも完売する人気ぶり。地域の気候風土を活かした食材の価値に気づくことで、暮らしに豊かな時間が生まれます。地域経済の循環が、心も豊かにする。そんなイベントに鵜鷹さんも手応えを感じました。

「農家の人たちと話す中で、跡継ぎがない悩みを聞くこともあります。体にいい、美味しいものを届けたいと一生懸命な様子を見ているので、その良さを、僕たちが次の世代につなげていなくては」  
自らの姿勢を祖父から受け継いだ自覚があるからこそ、気づいた使命です。



旧網干銀行 湊倶楽部は1922 (大正11) 年に竣工した歴史的建造物

<http://aboshiminato.club/>

1992年姫路市白浜町生まれ。神戸の専門学校を卒業してパン職人として神戸で5年働き「力を試したい」と東京へ。数年働いた後、「旧網干銀行本店」の建物を保全し「人の集う場所を作りたい」というオーナーの思いに共感し、料理の道へ。2019年1月にUターンして10月に「旧網干銀行 湊倶楽部」を開業。

インタビュー動画



銀行時代に金庫室だった場所は歴史を伝えるギャラリーに

key word

鵜鷹さんの言葉から考える「ひょうごビジョン2050」のヒント/  
1 現地に足を運ぶ 2 地域で循環 3 次世代につなぐ

循環する地域経済 / 活動を支える確かな基盤  
進化する御食国

## 生産者を訪ねて旬の野菜を手に入れる

10月中旬のレストラン定休日、鵜鷹さんは店から車で約30分の栗町まんまる農園(たつの市)を訪れました。週1回は訪れる地元野菜の仕入れ先です。見たことのない野菜も積極的に試作し、メニューに取り入れています。秋口まであるカボチャの一種バターナッツはポタージュスープに、初冬のキウイモはグラタンや付け合わせのフリットに……。  
「僕がシェフとしてできることは、生産者と消費者の架け橋になること。どんな土地でどんな人がどんな思いで作っているのかをお客様に伝え、お客様の率直な言葉をこんどは生産者の皆さんに伝える。だから、生産者のいる現地に足を運ぶことを大切にしています」

鵜鷹さんの祖父は中華料理店を営んでいました。「新鮮な食材にこだわる祖父の背中を幼い頃から見て、僕も自然と地産地消を重視するようになりました。気候風土の多彩な五国がある兵庫は食材の宝庫です。そこで育まれた食文化を伝えていきたい」



4 自立した経済が息づく社会





オーストラリア西海岸の200万都市・パース出身のジェイムズ・マッキンタイアさんは自然豊かな豊岡市で、友達を作り、人との関わりを楽しむ暮らしを満喫中。次代を担う高校生とともに、地域の未来を考えた活動をしています。

### 東京にあこがれて来日、田舎暮らしの良さに目覚めた

ジェイムズさんは「大学3年の時に訪れた東京にあこがれて」来日。しかし東京では仕事がなく、神奈川県西部で英会話講師に。「最初がっかりしましたが、半年ぐらいて気持ちが変わりました。東京は人が多すぎるから、周りとの距離を取りたくなる。田舎はお互いに助け合う雰囲気があり、友達もできやすい。歓迎されていると感じます」



市立図書館前の庭はくつろぎの場所



イベントスペース「とど兵(とどひょう)」にもよく出かける

少子高齢化が顕著な北海道で暮らして「まちづくりには若い人たちの力が欠かせない」と痛感。そんなころ目に留まったのが「高校生と地域をつなぐコーディネーター」を募集する豊岡市の告知でした。「仕事内容にすごく共感したので、どんな場所か調べました。1市5町が合併した豊岡市は、海のある竹野、温泉街の城崎、城下町の出石……好きな風景や自然がたくさんある。やりたいことをやりつつ、日常生活の中で旅行気分が味わえる」と移住を決めました。

好きでやってきた豊岡ですが「暮らしていくとやっぱり田舎なんだなって思った時期も。どうやって面白くしようかと考えて自分から動くことにしました。動いていると毎日、小さな発見があるし、同じ場所に何回も行ってたら、いずれ声がかかってくる。つながりや関わりを持つことによって生活を楽しくすることができます」

「自分から動く、関わりを持つ。どこにいても豊かに生きられます」



地域おこし協力隊の同僚と一緒に兵庫県立出石高校でミニFM番組「耳をすませば」の収録に臨むジェイムズさん

### つながってる・参加してる・役立ってる感覚が幸せのもと

昨年10月から高校生との15分間のトーク番組を地元のミニFM局で始めました。「小さなことでも町の中でいろんなことに取り組むことで、高校生のこの町に対する気持ちが変わっているのかなと思います。高校生のうちに地域の良さに気づいてもらい、進学や就職で一度離れても、地元に戻ってくるような流れを作り出せれば」高校生の国際交流団体が実施した、在住ベトナム人との交流会も手伝いました。「本当にすごいですよ。高校生はやる気はあるし、能力も高い。自分から動くことを楽しんでいる。彼らはやっぱり希望の種ですね」

ジェイムズさんは中学の先輩が言った「いろんな関わりを持った方がいい」というアドバイスを大切にしています。持ち前の行動力を発揮して、城崎温泉の旅館の人たちの会議にも参加。「ある人の紹介で入らせてもらって一緒にいろんなことを考えています。豊岡に住んでいても、お客さんとして城崎に行って終わりではなく、そこで生活している彼らと同じ側に立てたのが面白い。僕は、表面だけでなく、中に入って奥まで見たいという気持ちがあるんです。もし都会に住んでいたら、人との距離感が違うのでできなかったことじゃないかなと思います」

「都会のように刺激的な情報は少ないけれど、豊岡には他のところのない価値が絶対にある。近くに大阪や京都のような大きな町がないので、何かが足りないと思うと町の中で作ることになります。その状況を逆手にとれば、他ではできない体験ができます」毎日同じ時間に同じ店に行き、同じ場所に座って話している高齢者たちの姿を見て「何かにつながるとか、参加してるとか、役立ってるとか。そういうものが感じられる生活がやっぱり幸せだと思う。中でも仕事が一番大事。それが充実していれば、田舎でも都会でも楽しく暮らせると思います。将来は、それぞれの良いところを満喫しながら気軽に行き来できるといいなと思います」



key word

ジェイムズさんの言葉から考える「ひょうごビジョン2050」のヒント／

1 気づきを大切に 2 自分から動く 3 人と関わる

## ジェイムズ・マッキンタイアさん

James McIntyre

地域おこし協力隊

1994年生まれ。友人に誘われた初の東京旅行で日本に魅了され2016年大学卒業と同時に来日。当初3年は神奈川県で仕事し、19年から3年間、北海道で地域おこし協力隊として活動。独学した日本語は読み・書き・話すともに堪能。日本の駅伝が大好きで、今年の箱根駅伝は沿道で声援を送った。

インタビュー動画



分散して豊かに暮らす  
カーボンニュートラルな暮らし  
社会課題の解決に貢献する産業



生命の維持を  
先導する社会





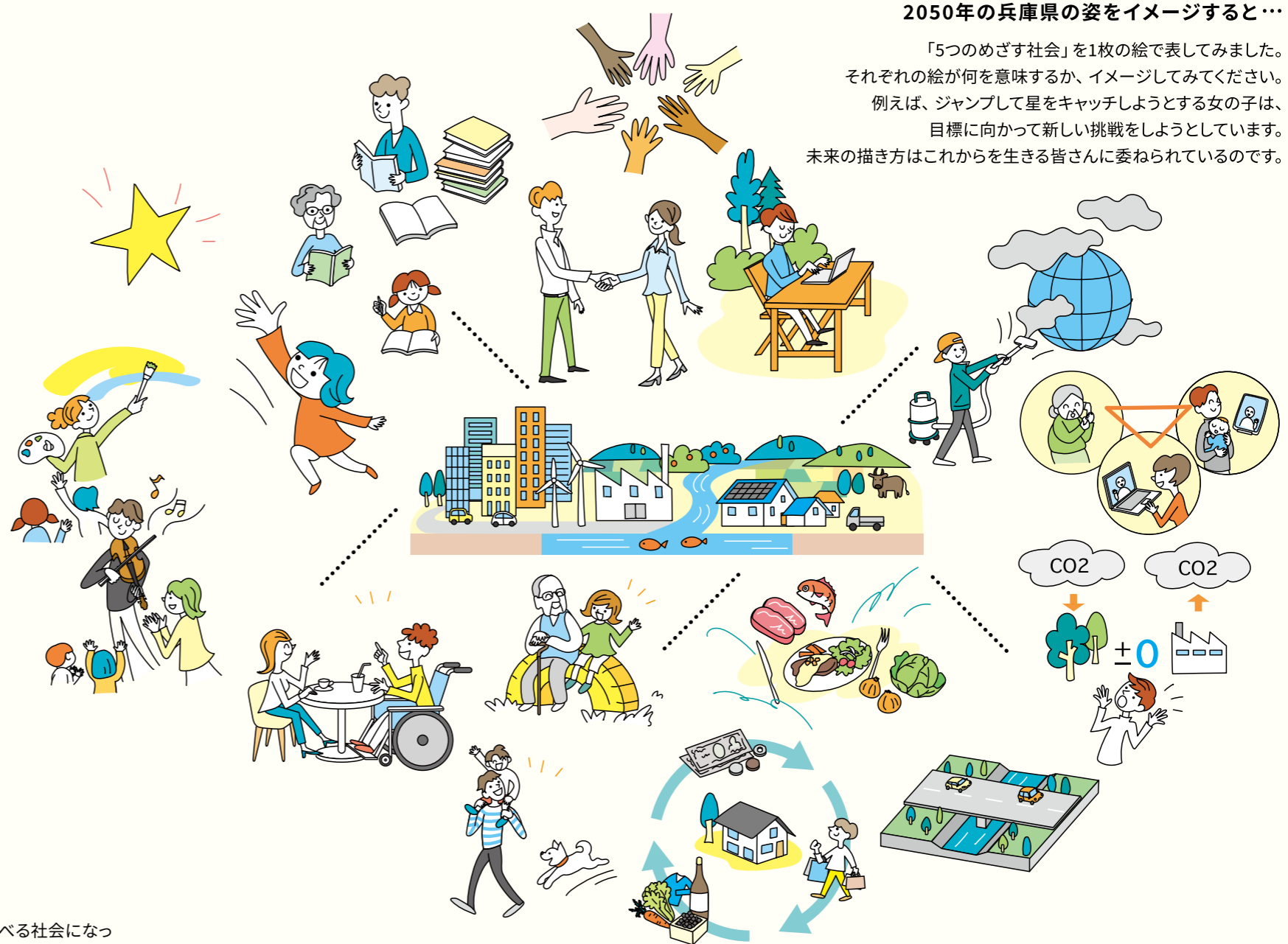
# ひょうごビジョン2050

## 誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる 「躍動する兵庫」

「ひょうごビジョン2050」とは、私たちが2050年ごろまでに実現をめざす兵庫の姿を県民の皆さんとともに定めたものです。めざす姿は「誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」です。「誰も取り残されず、みんなが希望を持って生きられる」という意味での「包摂」と「思い思いのチャレンジができ、一人ひとりの可能性が開ける」という意味での「挑戦」、この2つを両輪にして「躍動する兵庫」を実現していきます。



### 5つのめざす社会



#### 2050年の兵庫県の姿をイメージすると…

「5つのめざす社会」を1枚の絵で表してみました。それぞれの絵が何を意味するか、イメージしてみてください。例えば、ジャンプして星をキャッチしようとする女の子は、目標に向かって新しい挑戦をしようとしています。未来の描き方はこれから生きる皆さんに委ねられているのです。



### 自分らしく生きられる社会

自由になる働き方 居場所のある社会 世界へ広がる交流

いろいろな価値観を認め合い、様々な選択肢から自らの意思で暮らし方や働き方を選べる社会になっています。みんなに居場所と役割があり、多様なコミュニティが活発に活動しています。各地に根差す文化や産業など五国の個性を強みに、国内外との活発な交流が行われる地域になっています。



### 新しいことに挑戦できる社会

みんなが学び続ける社会 わきあがる挑戦 わきたつ文化

人生100年時代の中で、何を大切に生きていくかを多くの人が自問するようになります。いろいろな経験ができ、一人ひとり異なる人生の道筋を描ける社会になっています。教育の形が変わり、生涯を通じて学び続け、新しいことに挑戦し続ける人が増えています。兵庫の多彩な文化が地域の魅力を高めています。



### 誰も取り残されない社会

みんなが生きやすい地域 安心して子育てできる社会 安心して長生きできる社会

どんなに科学技術が進化しても、大事なことは、人とのつながりであり、人の温かみです。つながりの大切さが認識される中で、年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わらず一人ひとりの個性が大切にされ、誰もが安心して暮らせる社会になっています。



### 自立した経済が息づく社会

循環する地域経済 進化する御食国 活動を支える確かな基盤

世界を覆うデジタル経済、広がるシェアリングエコノミー。そうした中で持続可能な経済社会をつくる取組が進められています。地域に根付くものづくり産業を中心に、食、農、エネルギー、文化など生活に密着した産業が成長し、地域の中で価値が循環する自立的な経済圏が形成されています。



### 生命の持続を先導する社会

カーボンニュートラルな暮らし 分散して豊かに暮らす 社会課題の解決に貢献する産業

資源の再利用やエネルギー自立の取組が進められ、カーボンニュートラルな暮らしが根付いています。自然に囲まれた潤いのある生活を志向する人が増え、兵庫の多様な地域性を活かした豊かな暮らしが各地で営まれています。人類の持続可能性を高める産業が県内に集積し、新しい基幹産業になっています。

# 社会変化の潮流

## 人口減少・超高齢化

大都市への人口集中が加速し、周辺地域では人口の減少が顕著に。一方で、寿命が延びて人口の高齢化も進みます。「人口減少＝衰退」のステレオタイプの発想から、定住人口が減少しても交流人口に恵まれ、質の高い豊かな暮らしを営める地域をつくりましょう。

⇒ 人口が減っても豊かな兵庫をつくる

## 地球からの警鐘

地球全体が暑くなり異常気象が当たり前になり、気候変動が進みます。環境の変化は災害を頻発させ、未知の感染症の流行も。資源の枯渇も懸念されます。社会に後戻りのできない変化をもたらす前に行動しましょう。

⇒ 未来の暮らしを守るために直ちに行動を

## テクノロジーの進化

時間や空間の制約を取り除くICT（情報通信技術）の進化は新しいコミュニケーションの可能性を秘めています。また、生命の概念を変えるテクノロジーも進展します。議論を尽くし、リスクに配慮しながらよりよい社会の実現に使いましょう。

⇒ テクノロジーを暮らしの向上に活かす

## 世界の成長と一体化

アジア、アフリカを中心に、今後も世界は人口も経済も大きくなり、成長が見込まれます。古くから海外に開かれた兵庫だからこそ「つながる力」を原動力に、つながり合い一つになる世界を模索していきましょう。

⇒ 世界とのつながりを地域の活力源に

## 経済構造の変容

工場設備などの有形資産から知識・技能などの無形資産に価値の源泉が移り、経済活動の「非物質化」が進んでいます。産業構造を見直して富の集中と格差の拡大に歯止めをかけ、変化に対応できる人を育てて変革の時代を乗り切りましょう。

⇒ 公正で持続可能な経済社会をつくる

## 価値観と行動の変化

今、社会は持続可能性を重視する中で「所有から利用へ」「固定から流動へ」「画一から多様へ」をキーワードに価値観と行動の変化が進んでいます。新しい価値観や行動様式を積極的に実践して、多様な生き方を実現していきましょう。

⇒ 新しい価値観・行動様式を根付かせる

# ビジョンに生かす兵庫の強み

## 五国の個性

### 気候風土、歴史文化の異なる五国からなる県

摂津、播磨、但馬、丹波、淡路という旧五国の多様な地域が関わり合い、補完し合って発展してきた兵庫県。県内での活発な交流は今後も新しい活力をもたらすでしょう。

## 培ってきた地力

### 高度なものづくり産業

阪神・播磨臨海地域を中心に基礎素材型や加工組立型の高度な製造業が分厚く集積しています。

### 多彩な地場産業

県内の地場産業は約40。酒、素麺、皮革、鞆、線香、釣針など全国トップシェアを誇る産業や、ケミカルシューズ、播州織、三木金物、淡路瓦など著名な産地があります。

### 世界有数の科学技術基盤

スーパーコンピュータ「富岳」や大型放射光施設SPring-8、X線自由電子レーザー施設SACLAが県内に。計算科学と光科学を中心にした知的創造拠点です。

### 食の宝庫

北は日本海、南は瀬戸内海、紀伊水道から太平洋に面し、気候風土の異なる土地が生む兵庫発ブランドの食材が多数。神戸ビーフ・但馬牛、山田錦、丹波黒大豆、たまねぎ、シラス、ホタルイカ、ノリなど国内外で高く評価されています。

### 防災先進県

阪神・淡路大震災はじめ度重なる災害を経験し、安全で豊かなまちを目指す兵庫。培ってきた防災・減災の知恵と技術は世界中の安全を守るために活かされています。

## 進取の気風～開放的な地域性～

### いち早く諸国文化を受け入れた海外との交流拠点

### 進取の気性に富む人材・企業を生んできた地域



摂津神戸海岸繁栄之図

古くから大陸や国内交易の拠点として栄え、1868年の神戸開港後は国際貿易港の開放的な気風が廻船問屋の高田屋嘉兵衛、現代まで続く企業のルーツとなった鈴木商店、生協活動の基礎を築いた賀川豊彦ら、新しい課題に果敢に挑む人材や企業を輩出してきました。



Tajima 但馬

日本海に面し積雪が多い。県最高峰氷ノ山などの山岳、変化に富む海岸線など自然美を誇る

Tamba 丹波

豊かな土壌を活かしたブランド農産品を生産。都会に近い“トカイナカ”として移住者に人気

Kobe/Hanshin 摂津 (神戸・阪神)

港町神戸を中心に開放的な都市文化が根づく。市街地が広がり県人口の6割が集中

Harima 播磨

肥沃な播磨平野、豊かな播磨灘、世界遺産姫路城を擁し、県土の4割を占める広大な地域

Awaji 淡路

国生みの島。南北の大橋で四国と本州を結ぶ。古くから御食国(みけつくに)と称され、今も農漁業が盛ん

一人ひとりの可能性が広がる「躍動する兵庫」を皆さんと一緒に。—— 兵庫県知事 齋藤元彦



# HYOGO VISION 2050

兵庫県は、県民の皆さんが「見て」「読んで」「共感し」「行動につなげる」ことに役立ててほしいと、ポータルサイト「ひょうごビジョン2050」を開設し、随時更新しています。

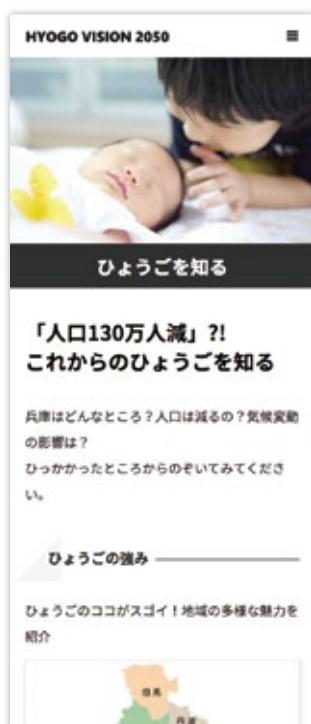
ポータルサイト

ひょうごビジョン2050

検索



<https://hyogo-vision.com/>

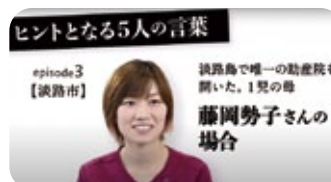


## 5つの姿を体現している5人のインタビュー動画



YouTubeチャンネル「ひょうごビジョン2050」

この冊子に登場した5人が登場する動画を順次公開しています。人生を楽しみながら「躍動する兵庫」を体現する姿を体感してください。



Twitter @hyogovision2050

30年後、何してる? 新しい生き方・働き方を実践する人たちのインタビューや、ビジョン出前講座の様子などを発信中。



兵庫県公式アカウント「love\_hyogo」

#lovehyogo を付けてInstagramへ投稿をよろしくお願ひします。



兵庫県  
Hyogo Prefecture

兵庫県 企画部 総合企画局 計画課  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号  
TEL 078-341-7711 (代表)